2010.7.3

生誕200年　同じ年に生まれた二人の天才
ショパン と シューマン　第5回

プログラム

今年生誕200年を迎えた1810年生まれの二人の天才作曲家、ショパンとシューマンの特集も5回目、最終回を迎えました。ショパンのマズルカは母国ポーランドの民族的舞曲で、57曲もの作品を残したことからもこの作品群に寄せる意欲の程が伺えます。19歳の時書かれた「序奏と華麗なポロネーズ」は若々しい軽やかな歌心に溢れた佳曲です。従来のスケルツォの形式より自由な曲想をちりばめたショパンのスケルツォ、従来の形式に捕らわれないキャラクター・ピースとして書き上げたバラード、共に4曲中からスケルツォ第2番、第3番、バラード第1番を聴いて頂きます。

シューマンの「序曲、スケルツォとフィナーレ」は特有の渋い響きと明るい曲想が魅力的な佳曲。「詩人の恋」は恋する喜び、失恋の痛手、過ぎ去った青春の想い出をうたったロマン派歌曲を代表する傑作です。最後のピアノ協奏曲は内面的な抒情と繊細な美しさを持ったシューマンを代表する名曲です。

ショパンは結核に冒されながらジョルジュ・サンドとの束の間の幸せのなかで、次々と名曲を生み出して行きました。しかし、病状は悪化し、離別後はかつての意欲もなく、生ける屍になってしまったかのように39歳の生涯を閉じました。シューマンは生涯、良き理解者であった妻クララに支えられて数多くの名曲を残しましたが、精神錯乱の病が悪化し、ライン川に投身してからは病院から戻ることなく46歳の生涯を閉じました。同じ年に生まれ、同じ時代を生きたショパンとシューマン。その作品達は永遠に輝き続けるでしょう。

＊＊＊＊＊＊＊

フレデリック・ショパン（1810～1849）：

マズルカ第47番イ短調op.67の4 / マズルカ第25番ロ短調op.33の4
シプリアン・カツァリス（ピアノ）
（1994.7.21　オシアッハのシュティフツ教会でのLive）

マズルカ第23番ニ長調op.33の2 / マズルカ第38番嬰ヘ短調op.59の3
エフゲニー・キーシン(ピアノ)
（1992.8.10　ザルツブルク祝祭大劇場でのLive）

マズルカ第40番ヘ短調op.63の2
マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）
（2000.11.21　すみだトリフォニーホールでのLive）

序奏と華麗なポロネーズop.3
ゴーディエ・カプソン（チェロ）／マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）
（2009.6.　ルガーノ音楽祭でのLive）

スケルツォ第3番嬰ハ短調op.39
マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）
（2000.11.21　すみだトリフォニーホールでのLive）

スケルツォ第2番変ロ短調op.31
バラード第1番ロ短調op.23
マウリツィオ・ポリーニ（ピアノ）
（1990.9.29　ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

ロベルト・シューマン（1810～1856）：

序曲、スケルツォとフィナーレop.52
ウォルフガング・サヴァリッシュ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団
（2003.10.2. ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive）

歌曲集“詩人の恋”op.48 から
第1曲“美しい5月に”～第2曲“私の涙から”～第5曲“心を深く沈めて”～
第7曲“私は嘆くまい”～第9曲“鳴るのはフルートとヴァイオリン”～
第10曲“恋人の歌をきくとき”～第16曲“忌まわしい思い出の歌”
ディートリッヒ・フィッシャー=ディースカウ（バリトン）／ウラディーミル・ホロヴィッツ（ピアノ）
（1976.5.18　ニューヨーク、カーネギーホールでのLive）

ピアノ協奏曲イ短調op.54
マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）
リッカルド・シャイー指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団
（2006.6.1　ライプツィヒ・新ゲヴァントハウスでのLive）